

## 企画事業 「自然体験活動に関する研修事業」

事業名	野外活動指導者スキルアップセミナー	
実施期	平成21年5月25日(月)～27日(水)	
担当者	企画指導専門職 仲地 雄太	

### I 事業の趣旨

青少年の自然体験活動の充実を図る上では、専門的なスキルを持つ指導者の果たす役割が重要である。指導者は、専門的なスキルの更なる向上を目指して日々研鑽を積み重ねなければならない。また、近年、自然との共存を踏まえた環境教育の観点から企画立案するスキルの必要性もでてきた。

この事業では、このような課題を踏まえ、渡嘉敷島の優れた自然環境を活かし、参加者が自然との関わりの中で自然体験活動の更なるスキルの向上が図られるよう活動プログラムを構成し、今後の青少年自然体験活動に活かす契機となる事業を目指した。具体的には次の3つの視点からスキルの向上を図る取り組みを実施した。

- ① 野外活動の楽しさ、素晴らしさを体感できるプログラムの企画運営力
- ② 野外活動におけるリスクマネジメント力
- ③ 環境保全を意識した野外活動の実践力

### II 事業の概要

#### 1 事業の目的

- ① 渡嘉敷島の自然環境を活かした野外活動の楽しさや素晴らしさを再認識させる企画事業とする。
- ② 指導者の日頃の活動で感じる課題等について相互に話し合えるよう工夫し、施設間のコミュニケーションを深める事業とする。
- ③ 海洋での野外体験活動を活かし、気象情報や海の状況を的確に把握するなどリスクマネジメントについての方策を深める事業とする。



【三角巾での救急法】

#### 2 参加対象及び募集人員

青少年教育施設職員、教職員、地域の社会教育指導者、行政担当者、野外活動指導者、民間団体指導者など、50歳未満の20人

#### 3 参加状況

男性10名、女性6名  
青少年教育施設職員・・・2人  
教職員・・・2人  
教育委員会職員・・・2人  
公民館職員・・・3人  
野外教育指導者・・・2人  
行政担当者・・・1人  
団体指導者・・・4人

#### 4 事業内容

- ① 「講義：自然体験活動における指導者の在り方」
- ② 「テント設営・撤収」
- ③ 「自然体験学習の基礎（クラフト）」
- ④ 「スノーケリングの指導方法」
- ⑤ 「ファーストエイド」
- ⑥ 「シーカヤックの楽しみ方」
- ⑦ 「野外炊飯の基礎」



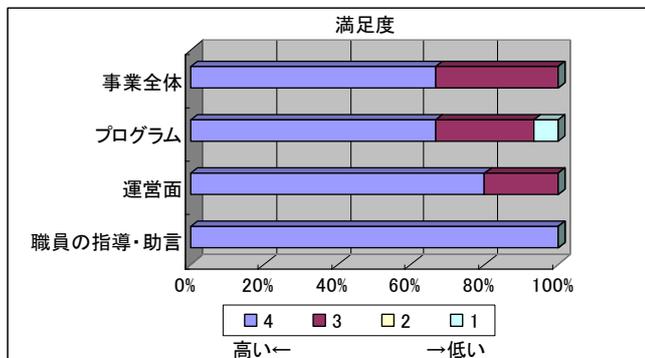
【シーカヤックの指導方法】

## 5 実施上の留意事項

それぞれの活動の現場で即実践ができるような、内容のプログラムを工夫した。

講師には、「体験活動を行う子どもたちにどのように指導することが効果的か」という視点での講義・実習を展開してもらった。

## 6 アンケート結果



### 《良かった点》

- 青少年の野外活動、体験活動の指導者としての初歩的な心構えや技術を再確認できた。
- 全て自分の体験したい内容だった。仕事上必要なことだったので大満足。一つ一つの内容が一生涯懸命になれるもので楽しかった。
- 野外活動指導者の心得を学んだ後に実技的な内容の体験活動で、取り組む姿勢が変わりプログラムの流れとしてよかった。
- 各々のスペシャリストの講義や実践でなかなか体験できない内容の事業で参加できてよかった。
- スタッフのみなさんのしっかりとした計画で今後の活動に生かせる経験ができた。今後ここで得た経験・知識・人とのつながりを活かしていきたい。

### 野外炊飯活動



### 改善すべき点

- 限られた時間の中でたくさんの内容をこなすのは意外と大変だと感じた。時間があるなら、習った後のフリータイムでもう一度復習できたらいいなと思った。プログラムに十分な時間がかけられないものが多かった。
- クラフト、ファーストエイド、シーカヤック、野外炊飯、基礎講座は充実していたが、スノーケル・リーフチェックはどこに主眼をおいて良いのか分かりづらかった。

- もう少しスノーケル、シーカヤックに時間が欲しかった。
- 講義は良かったが、スノーケル、シーカヤックでは経験者・初心者くらいは分けてレベル別に細かく指導して欲しかった。復習にはなったがスキルアップにはならなかった。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 事業の成果

本事業は参加者が自然体験活動に携わる経験を持ち、これまでの経験を活かし、活動プログラムに対する個々の見方、考え方をとおして取り組み、その内容はレベルの高いものとする事ができた。講師からの指導とお互いの経験、技術がしっかりと噛み合い、参加者が互いに高め合う事ができた。

アンケートなどからも見て取れるように参加者は今後のそれぞれの活動や仕事などにも活かしていきたいとの声も多く所期の目的は達成する事ができた。



【あだん葉での風車づくり】

### 2 今後の課題

#### (1) プログラムの時間配分の工夫

講義、演習の時間と併せ、参加者の情報交換の時間を確保し、互いに学び合う場面を増やすことで更なる効果が期待できる。

#### (2) 専門的技術を持つ参加者への対応

- ・ スノーケリングやシーカヤックなど、スキルの高い参加者もいることから、初心者と経験者とを分けてのスキル別講座の実施
- ・ 参加者が持つ高いスキルを伝える場の設定

#### (3) ニーズの調査と参加者確保の工夫

社会教育施設、自然体験活動団体等の機関に対し同事業の周知を図るとともに、プログラム作成にあたり指導者のニーズを調査し、それを踏まえて参加者の確保に努める。

#### (4) 当交流の家専門職による直接指導

講師招聘に頼るばかりでなく、企画・運営・指導を当施設独自に行えるよう、専門職のスキルアップ体制を整える。